

研修報告書

報告者

第1番議員 中嶋 治樹

日 時

令和7年1月26日（日）～1月29日（水）

視察場所

沖縄県恩納村

1月26日～29日までの沖縄県恩納村議員視察研修での研修報告を行います。今回の視察は、友好都市恩納村への表敬訪問と村内各施設の視察をさせて頂きました。初日は、恩納村産業まつりに参加させて頂き職員の方にいろいろ案内をしてもらいました。お祭りは、恩納村の地元特産品の販売や飲食ができ、山菜まつりに似ていました。なかでも恩納村のリゾートホテルによる各ホテルの名物カレーの販売には、行列が出来ていて驚きました。

川上村から有志による川上そばの販売をしていました。沖縄には、日本そばがほとんどないとの事で川上そばもとても人気でした。大変賑わいのあるお祭りで驚きました。また、10月

には、「うんなまつり」が行われ花火大会も併せて開催されるとの事でした。

今後は、村民が相互にお祭り等に参加するなど、友好都市としての交流がもっと盛んになるような施策も必要ではないかと感じました。

2日目からは、村内各施設の視察をさせていただきました。その中で農水産物販売センターおんなの駅「なかゆくい市場」の視察では、興味のある話を社長さんがして下さいました。この施設は、平成16年にオープンしたそうですが、私のイメージでは、恩納村には農水産物を始めお土産品もたくさんあり、リゾート観光地という事で観光客もたくさんいるので出店すればすぐに利益が出せるイメージでしたが、創業当初は、入客数、売り上げが計画通りにいかず、大変苦しかったそうです。売るものがある、人がいるだけでは商売は成り立たず、改善策として特産品をどう販売するか、観光客をどう取り入れるか、従業員、村民の創意工夫で今では年

間130万人が訪れる恩納村で一番賑わいのある施設になっているとの事でした。

川上村にもマルシェ川上がありますが、集客、売り上げにはかなり苦戦していると思いますが、4月～10月頃には観光客やクライマーの人たちで大変賑わいのある村になると思います。また実習生も含め、その人たちがマルシェに集まって村一番の賑わいのある場所になるよう行政、村民が協力していく事も必要ではないかと思いました。

研修報告書

報告者

第2番議員 川上 真人

日 時

令和7年1月26日（日）～1月29日（水）

視察場所

沖縄県恩納村

一月二十七日、川上村議会視察研修会 2 日目。恩納村内施設の視察をした。まず、役場にて全職員が拍手で迎えてくださる手厚い歓迎を受け役場に通された。役場では、3階で飼われている川上犬が元気である事が何よりもうれしかった。暑い時には元気がなくなる時もあるそうだが、風通しの良い広い屋上での犬舎で、快適に暮らしている様に感じた。

役場からうん名中学校に移動し、中学校の視察をした際には、中学生の元気さに圧倒された。沖縄の子供達は元気がある。（大人もだが）その後、恩納村の体育施設を視察した。陸上競技場は、全天候型トラックが整備されており、トレーニングルーム（ウェイト場）も充実した

器具が揃っていた。陸上競技場のすぐ隣には、野球場があり、韓国のプロ野球チームのキャンプ地としての利用があるとのこと。電光掲示板も整備されており、近々には、観客席も増設するとの事で、増々立派な球場になると思われる。サッカー場は、川崎フロンターレのキャンプが行われていた。綺麗な天然芝のサッカー場であった。こちらも近々、もう少し広げるとの事であった。赤間ドームという室内施設と陸上競技場、野球場、サッカー場、野球サブグラウンド、多目的芝生面と非常にコンパクトにまとめた施設となっており、使い勝手が非常に良い様に感じた。クロスカントリーユースが整備されておれば尚更に素晴らしいと思った。

前兼久漁港では、もずくが一斗缶で想像がつかないくらいの量が貯蔵されていた。

物産直売所（おんなの駅）には、特産物や地元野菜が多数売られており、賑わいを見せていた。姉妹都市コーナーもあり川上村

のマルシェからも数品目の商品が売られていた。

次に川上村からの技術で栽培されはじめたレタス畑を視察し、立派なレタスに感動した。冬場という事で沖縄では作りやすい時期なのかもしれないが、素晴らしいレタスであった。鳥害があるとの事で、畑全体に網がかけられており、鳥の被害は見当たらなかった。現在は、ホテルを中心に出荷しているとの事だった。

最後に OIST という大学院大学で職員に説明を受けた。想像をはるかに超える広さと施設、そこでの学生の研究内容とただただ驚嘆するばかりであった。ここから将来のノーベル賞受賞者も多数輩出される事だと感じた。

以上、恩納村の施設視察の感想をかいつまんで書かせていただきました。乱文にて失礼いたしました。

研修報告書

報告者

第3番議員 古原 和哉

日 時

令和7年1月26日（日）～1月29日（水）

視察場所

沖縄県恩納村

川上村議会は令和7年1月26日から1月29日までの日程で、友好都市提携を結ぶ沖縄県恩納村を中心とした視察を行いました。

私からは、この視察の中で特に印象に残った3つの内容について報告いたします。

まず一つ目は、恩納村内の5つの中学校を統合した「うんな中学校」についてです。

この「うんな中学校」は令和2年4月に開校しました。村の中心部に位置し、傾斜を活かした建物となっており、高台からは海を見渡すことができます。また、機能面にも工夫が施されており、プールを屋上に設置することで、火災時には消火用水として利用できる仕組みが整えられています。デザイン面だけでなく、安全面にも十分配慮された素晴らしい設計だと感じました。

さらに感動したのは、生徒たちの清々しい挨拶です。そして、廊下に掲げられていた素晴らしい標語も紹介したいと思います。

① 感じる人間

うれしいときには笑い　　悲しい時には泣き　　真心には感謝し

悪いことを憎む　　こんな人になりたい

② 感じる人間

人を大切に　　自分を大切に　　物を大切に

③ 感じる人間

遊びたい心　　押さえる心

どちらが勝つかが君の将来を決める。

これらの標語のもとで、生徒たちが育っていることを感じさせられました。

次に、太平洋戦争において女子学徒の命を救った軍医、故小池勇助氏について紹介します。

小池氏は佐久市野沢の出身で、軍医として各地に出征しました。最後に沖縄で学徒隊の少女たちを預かり、戦闘が激化し命の危険が迫る中で「絶対に死んではならない」と最後まで少女たちに伝えたと聞いています。この言葉によって、多くの女子学徒の命が救われました。佐久の先人として、また長野県人として、彼が持っていた強く優しい心に感銘を受けました。

最後に、ふるさと納税についてです。恩納村ではこれまでふるさと納税対策に力を入れ、令和4年度の成果は19億7千万円となっています。現在では、

さらにこの数字を伸ばしています。川上村でもこの取り組みを見習うべきだと強く感じました。

今回の視察では多くのことを学びました。この経験を、今後の議員活動に活かしていきたいと考えています。

以上で、私からの視察報告を終わります。

研修報告書

報告者	第4番議員 渡邊 亜子
日 時	令和7年1月26日（日）～1月29日（水）
視察場所	沖縄県恩納村、うるま市浜比嘉島「HAMACHU」

沖縄県うるま市浜比嘉島の廃校利用施設を視察してきました。浜比嘉島は那覇から車で1時間の距離にあり、浜比嘉大橋を渡っていける離島で、琉球を作った神様が最初に住んだ「神の島」として知られています。赤瓦屋根の家並みや石垣など、昔ながらのたたずまいを残す神秘的な島です。その島にある旧浜比嘉中学校をリノベーションした宿泊滞在型ワーケーション施設「HAMACHU」を視察してきました。この施設は「一般社団法人プロモーションうるま」によって運営されており、「島の暮らしと生き方の探求がチャンプルー（ごちゃまぜ）学び舎」をコンセプトに地域活性化や移住促進、教育プログラムの提供など様々な活動を行って

いる法人です。私は説明の中で「関係人口」と言う言葉に興味が湧きました。移住した「定住人口」でもなく観光に来た「交流人口」でもない地域と多様に関わる人々を指す言葉です。地方では高齢化、人口減少により地域の担い手不足に直面していますが、変化を生み出す人材が地域に入り、魅力を発信し「関係人口」になっていただける事は地域の活性化に繋がるのではないかと感じました。

お話の中で「HAMACHU」を利用した方は「ただいま～」と言って戻ってくると聞きました。人との繋がりは私たちの人生において、とても大切です。人は誰も1人では生きていくことが出来ず、様々な人との関わりの中で支え合い、成長していきます。繋がりがあある事で喜びを分かち合い困難があれば助け合う事が出来ます。また、新しい出会いや交流を通じて学びが広がり自分の世界を豊かにすることが出来ます。人の

繋がりを大切に、人生をより豊かにできる
「HAMACHU」はワクワクが詰まってい
るとてもステキな施設でした。

年間、新たに 450 校が廃校になり 2 割が
未活用。維持、管理も出来ず解体になると
いう現実がある中で「HAMACHU」は地域
社会のコミュニティの核として、住民との
結びつきが強い学校施設のあり方を考えて
運営していました。今回の視察では地域の
魅力を活かすこと、住民の参加が重要であ
ることを学んできました。川上村の発展に
つなげたいと思います。

研修報告書

報告者	第5番議員 渡邊 正
日 時	令和7年1月26日(日)～1月29日(水)
視察場所	沖縄県恩納村

去る1月26日～29日に沖縄県に行政視察として恩納村等に視察研修に行っていました。その中で3日目に恩納村から場所を移動し、うるま市のHAMACHU「浜比嘉島交流施設」、「平和祈念公園」、そして「糸洲の壕」を見学しました。糸洲の壕は、佐久市出身の小池軍医が沖縄戦末期、全学徒隊に解散命令が出るなか、指揮していた学徒隊に「生きて親元に帰り、戦争の悲惨さを後世に伝えるよう」と訓示され、多くの学徒隊が解散命令後に戦闘に巻き込まれたり、集団自決に追い込まれる中、ふじ学徒隊の戦死者は数名にとどまりました。

小池軍医最後の地となった糸洲の壕は、諸事情により維持管理が困難になってきている中、

佐久市が平和学習の場とする為、学習環境整備を行いました。整備された壕の内に入りましたが、実際には、もっと奥がその場所と聞き、戦中の状況のすごさを知りました。

戦争の恐ろしさ、悲惨さを考えると、今、世界で起きている戦争、紛争を決して許してはならないと改め考えさせられました。

私、個人として、これまで何度か沖縄を訪れる事でしたが、観光目的という事が多く、「平和祈念公園」「糸洲の壕」を改めて訪れた事で、今に生きる私達が平和の大切さ、戦争の悲惨さを後世につないでいきたいと考えさせられた視察となりました。

研修報告書

報告者

第6番議員 井出 光

日 時

令和7年1月26日（日）～1月29日（水）

視察場所

沖縄県恩納村

沖縄県恩納村を視察して最初に感じたのは自然環境の豊かさでした。

サンゴ礁の美しい海岸や万座毛等の絶景を求めて年間約300万人の観光客が訪れ、それを収容できる28の大型リゾートホテルが立ち並ぶ一大リゾートエリアでした。

人口は約11,000人だが、観光業やOIST（沖縄科学技術大学院大学）の生徒・教授・事務員等々により微増している。

しかし、少子化の波には逆らえず子供の数は減少し、中学校は5校を統合して恩納村立うんな中学校が設立された。

そこを見学させていただいたが、設計前に村民アンケートや各学校の先生の意見を聞いて、

そのコンセプトを基に設計会社の実績を調査し指名入札を行い素晴らしい学校ができていた。

川上村立川上小学校の建設にあたっても是非そのノウハウを活かしていきたいと思う。

3 日目にうるま市の廃校利用施設 HAMACHU を視察したが、人口 12 万余、一般会計 732 億円の市でも諸島部では過疎化が進んでいた。

また、施設管理者の説明を受けたが、改めて廃校の再利用の難しさを感じた。

研修報告書

報告者	第7番議員 由井 基治
日 時	令和7年1月26日（日）～1月29日（水）
視察場所	沖縄県恩納村

恩納村は年間400万人もの観光客が訪れる日本屈指のリゾート地で、2000年の九州・沖縄サミットの際には各国の首脳が同村のホテルに滞在しことでも知られています。このように観光地として注目を集める恩納村ですが、農業も盛んに行われており、果樹をはじめとして花きや野菜、肉用牛、豚など多数の農作物の栽培や家畜の飼育に取り組んでいます。なかでも果樹品目の「パッションフルーツ」「アテモヤ」、花き品目の「小菊」「切り花（ドラセナ類）」「観葉鉢物」は沖縄県の拠点産地に認定されています。

このように農業振興にも力を入れている恩納村が10年ほど前から取り組んだのが「シン

カプロジェクト」で、若者の就農促進や遊休農地の有効活用のため、川上村のレタスの栽培技術を習得することで産地化を図るとともに、ホテルや飲食店へ出荷して地産地消を推進することを目的に活動が始まりました。「シンカ」とは沖縄の方言で仲間を意味する「シンカヌチャー」から由来しているそうです。

このプロジェクトによって、本来の目的である恩納村レタスの栽培技術の向上だけでなく、自治体間の交流はもとより住民同士の交流が深まり、今では川上村民にとって大事な友人となっています。

今回の視察では、プロジェクトの開始当初からレタスの栽培に取り組む東さんのレタス畑を訪ねました。

恩納村のレタス畑は川上村に広がる畑の風景とは異なり、「タイワンシロガシラ」という鳥の食害を防ぐためにほ場の全面が網で覆われており、その中でレタスが栽培されています。

東さんによると昨年 11 月の多雨で畑が 30 cm も浸水し、作柄への悪影響を心配されたようですが、玉のしっかりとした素晴らしいレタスの出来栄でした。インバウンドの影響からリゾートホテルとの契約販売も良好で、人手を増やして作業にあたっているとの事です。

今後、リゾートホテルとの契約販売を進める上では、結球レタスだけでなくリーフレタスなどの栽培も検討していくと恩納村のレタス栽培の更なる発展が見込めるのではないかと思います。

東さんとは個人的にも数年前から交流があり、お酒を酌み交わしたり、ゴルフをしたりと親しくさせてもらっていて、2 年前には私のほ場にも視察に来てくれました。今回レタスの生育状況や販売状況について話してくれる東さんからはレタス栽培に対する熱意が感じられ、時おり笑顔が見られて大変うれしく感じました。

長浜村長をはじめ、恩納村議会の皆さんや東さんなど、大勢の方と話をする中で、これからも友好都市として自治体同士、そして住民同士が更に交流を深めていくことの重要性を再認識する視察となりました。

研修報告書

報告者

第8番議員 林 克比古

日 時

令和7年1月26日（日）～1月29日（水）

視察場所

沖縄県恩納村

早朝羽田空港発の飛行機に乗り那覇空港到着。午前中に恩納村につき、恩納村産業まつり赤間多目的運動場ドーム会場で祭りは開催されて、1月25、26日行われていましたが、私たちは26日祭りに参加できました。

赤間多目的ドームは、韓国から野球チームが合宿に来る赤間総合運動公園内にあり、そこでお祭が開催され沢山の村内特産品の販売、ホテルのカレーの販売がされているスペースの中に川上村からのそば打ちの会の方々が一生懸命そばの販売、おやきの販売に頑張っていました。会場一画に川上村議員の為にスペースが用意されて、恩納村村長、議長、議員、職員の方々と楽しい時間が過ごせました。頂いたまだ温か

い黒糖は大変おいしく、この恩納村でなければ
頂くことはできないだろうと感じました。沢山
ある展示ブースも見学させていただき、宮崎議
員の家族が作るイチゴがとても立派で、沖縄の
温かいところでもイチゴはできることに努力
と技術に感動しました。数時間でしたが、恩納
村の方々に感謝し川上村の山菜まつりには、そ
れ以上の活動をしなければと思いここをあと
にしました。

研修報告書

報告者

第9番議員 大西 たま子

日 時

令和7年1月26日(日)～1月29日(水)

視察場所

沖縄県恩納村 前兼久漁港

恩納村二日目に長浜議会事務局長の案内により村内施設7カ所を視察しました。3カ所目の前兼久漁港では、海からの強風と雨もぱらつき、暖かいと思っていたのとは大違いで、その上、－5度のもずくの一斗缶が積まれた冷凍庫での説明は意識も上の空でした。雨をよけながらひさしの下で役場農林水産課の職員からの説明で農産物取扱い品目の花卉観葉植物農家は県全体の1割強を占めるとの事に驚きました。水産物は、もずく、アーサ、海ぶどうの養殖が盛んで特にもずくの養殖技術は恩納村から全県に広めたとの事でした。もずく用の冷凍庫を設置してから1年間を通し安定した出荷が出来るようになった事から、さらに、サンゴ

礁海域が主な漁場としている事を売りに、もずく、アーサ、海ぶどうのブランド化に力を入れ資源管理型漁業の安定継続化を目指しているとの事でした。

おんなの駅（なかゆくい広場）では、農産物、水産物に菓子、ジャム、泡盛、陶器、ガラス製品、加工食品など品揃えが豊富でした。農水産品の加工品の開発にむけた、支援体制と行政のかかわり方を質問する機会がつかめなかった事が心残りでした。

前兼久漁港は、マリンレクリエーションの拠点にもなっていて、観光客の受入れの強化で広い駐車場、子ども用の大型遊具と管理棟、浮棧橋を整備し、地元漁業者と観光客との共存関係を築いたとの事でした。移動中の車窓からは綺麗な砂浜が見られ、また、ビニールハウスもいくつか見られました。担当課の説明や資料から、農業、漁業そして海の観光資源のバランスのとれた発展

を目指す様子を伺う事が出来ました。

研修報告書

報告者	第 10 番議員 由井 秀樹
日 時	令和 7 年 1 月 26 日（日）～1 月 29 日（水）
視察場所	沖縄県恩納村、糸満市

研修 3 日目の午後、平和研修として糸満市沖縄平和祈念公園を見学した。摩文仁の丘、信濃の塔で献花し国立沖縄戦没者墓苑がある霊域参道を散策、長野県の慰霊碑には、本村御所平出身で、昭和 20 年 4 月 16 日、第 3 筑波隊の特攻隊員として、喜界島南東で戦死された由井勲少尉の名も刻まれており、郷里の先人に思いを馳せ、背筋が伸びる思いであった。

その後、数キロ移動し糸洲の壕を訪れた。ここは沖縄戦の末期、穂積高等女学校の生徒 25 名からなる「ふじ学徒隊」の隊長として、佐久市野沢出身の小池勇助軍医が指揮していた野戦病院が置かれていた「ガマ」と呼ばれる自然洞窟である。小池軍医は、昭和 20 年 6 月 23

日、日本軍司令官、牛島満中将の自決により組織的戦闘が終わったとされたのちの、26日「ふじ学徒隊」の解散命令を下すにあたり、最後の訓示で「必ず生き残って家族のもとに帰りなさい。絶対に死んではならない。この悲惨な戦争の最後を銃後の国民に語り伝えてくれ。」と呼びかけ、学徒隊全員がガマを脱出するのを見届けて、自決したとされている。25人の学徒隊のうち、22名が戦後生き抜いたという。

ガイドをしてくれた佐久市出身の井出佳代子さんの気持ちが伝わるような、身の引き締まる思いの案内、説明だった。小池軍医の出身地佐久市では、修学旅行や長野県から訪れる学生らの平和学習での活用のため、糸洲の壕の整備事業を実施し、1月30日に阿部長野県知事、柳田佐久市長が出席して記念式典が行われるとの事だった。

平和ガイドとして我々に説明、案内をしてくれた井出佳代子さんには、他にも「鉄血勤皇隊」

「ひめゆり学徒隊」の事も熱く語っていただいた。

戦後 80 年の節目となる本年、風化させてはならない先の大戦の事実と悲惨さを、後世に伝える責任が我々にはある事を痛感した研修であった。